

第 8 回 議会運営委員会

令和 6 年 4 月 17 日 (水)
5 階 第 1 委員会室

開 会 9 時 0 0 分
閉 会 1 0 時 0 0 分

午前 9 時 00 分 開会

○委員長（樋田翔太君）

ただいまから、令和 6 年第 8 回議会運営委員会を開会いたします。

○委員長（樋田翔太君）

はじめに、1 令和 6 年第 3 回瑞浪市議会定例会についてお願いいたします。

招集について、市長よりお願いいたします。

市長 水野光二君。

○市長（水野光二君）

おはようございます。

樋田委員長におかれましては、1 年間しっかり議運のほうの運営をしていただければと思いますので、よろしくお願いします。

災害、能登の震災ですけれども、前もお話ししましたように、復興復旧の状況になりまして、ある意味では長期スパンの職員の派遣という状況になってきておりますので、取りあえず常駐職員を 1 年間派遣するというようになっておりますし、ただ短期の支援要請も来ておりますので、被災避難所などの運営にまた 2 人の職員を 1 週間単位で派遣すると、そんなこともやらせていただいておりますが、議員の皆さんにおかれましても、様々な支援をしていただいているかと思ひますし、御心配もしていただいていると思ひますけれども、しっかり被災地を支援していきたいと、そのように思っておりますので、よろしくお願いします。

それでは、第 3 回瑞浪市議会定例会の招集についてのお願いをさせていただきます。

令和 6 年第 3 回瑞浪市議会定例会を、6 月の 3 日に招集させていただき、開催したいと思ひますので、よろしくお願いします。

なお、上程議題につきましては、現在準備中でございますので、その概略につきましては、来月に予定されております議会運営委員会で御説明をさせていただきたいと思ひますので、よろしくお願いします。

以上でございます。

○委員長（樋田翔太君）

ありがとうございました。

次に、第 3 回定例会の会議日程について、事務局長が説明します。

事務局長 大山雅喜君。

○事務局長（大山雅喜君）

それでは、お手元の定例会会期日程の案をご覧くださいと思います。

令和6年第3回市議会定例会の会期は、ただいま市長から御案内がありましたように、6月3日から28日までの26日間です。

初日となる3日月曜日は、午前9時に本会議を開会し、議案上程を行います。

4日から9日までの6日間は休会といたします。市政一般質問の通告は、4日火曜日、議案質疑の通告は5日水曜日、いずれも午後3時を通告期限とします。

10日月曜日は、午前9時より本会議を再開し、議案質疑、それから委員会付託を行います。

11日から23日までの13日間は休会とします。休会中に三つの常任委員会を開催します。13日木曜日に総務厚生学教委員会、14日金曜日に地域経済建設委員会、17日月曜日に予算決算委員会を、それぞれ午前9時から開催します。18日火曜日は、委員会予備日とします。

24日月曜日、25日火曜日の2日間に市政一般質問を行います。

最終日となる28日金曜日は、午前9時から本会議を再開し、委員長報告、質疑等の採決を行います。

説明は以上です。

○委員長（樋田翔太君）

ただいまの説明に対して質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

よろしいでしょうか。

では発言もないようですので、質疑を終結いたします。

ただいま、御審議いただきました第3回瑞浪市議会定例会につきましては、本日開催されます市議会全員協議会にて説明をし、決定しますのでよろしくお願いいたします。

○委員長（樋田翔太君）

ここで、執行部の皆さんは退席願います。ありがとうございます。

〔執行部 退席〕

○委員長（樋田翔太君）

では次に、2 その他を議題とします。

何か御意見はありませんか。

事務局長 大山雅喜君。

○事務局長（大山雅喜君）

本日、朝、配らせていただきましたけれども、一般質問に関する手順の御案内をさせていただきたいと思います。

資料を4枚配らせていただいております。一番上が打合せシートの提出手順ということで、これ

に沿って説明をさせていただきます。

今までどおりですけれども、まず1か月前から一般質問の通告の打合せ等が開示されます。それに合わせて、市政一般質問打合せシートという、一番上の紙ですけれども、これに質問事項、要旨、標題に当たるものですね、標題に当たるぺらっとしたもので結構ですので、これについて質問したいという標題を書いていただいて、下のほうにはその質問に至る経緯など、何か思いがございましたら書いていただくと。

既に要旨とかは、お考えのある方はここに書いていただいても構いません。それをもって、執行部と打合せを始めていただいて、その中でまた要旨とか変われば、その都度変更していただいても構わないということで、まず一番最初にこの市政一般質問打合せシートというのを、すみませんが作成していただきたいというように思います。

それで、約1か月間の中で執行部と打合せをしていただいて、その後、要旨とか固まりましたら、今度は2枚目にあります一般質問予定シートというもの、これにほぼ清書のような形になると思いますけれども、一度これに書いていただいて、各答弁者の方々と確認をしていただいて、事務局に提出いただく、これを開会の2日前までに提出をお願いしたいと思います。

そこで最終チェックをさせていただきますと、これ本当に文面からは「てにをは」の部分だけだと思いますけれども、そこだけチェックさせていただきますと、よろしければ開会後に一般質問の通告書を清書していただいて、提出いただくということでお願いしたいと思います。

それで執行部のほうとしましても、議員の皆さんがどういった思いで一般質問をなされるかという思いから、知りたいという考えもありましたので、今回は一般質問打合せシートというものを新たに作らせていただいたということでございます。

説明は以上です。

○委員長（樋田翔太君）

この件につきまして、質問はありませんでしょうか。

○委員（熊谷隆男君）

質問じゃないけれども、経緯だけ説明を。

○委員長（樋田翔太君）

では4番、熊谷隆男君。

○委員（熊谷隆男君）

会派では話したので、皆さん頭に入っておると思いますけれども、うちの会派の中からの直接の意見で、あそこへ書くのが実際やるのが2か月前に作らんなんということになる。

それで2か月の間に何が起きるか分からんけれども、早く打ち合わせして正規の文書になってしまおうと、変わってしまうというのがある。

それで、あそこへ今度出すのは何の目的かと言うと、当初あの予告シートを作るときの建前で言うと、ほかの人と当たらないようにチェックしてくださいよと、同じものが出たらということだけれども、結構皆さんほかの人のやつはそう見ないし、逆に出てもなかなかそこで言えんで。それで

あの出たやつは執行部のほうにも伝わるわけで、そうすると答弁者のほうも逆のことを言うと、それをまた訂正されて消されたりっていうのをあそこで公表するというのは、あまり議員としてもうれしいことではないと。

要は、知ってもらえる、どういうことが言いたいかを、答弁者のほうに、担当課のほうに知ってもらえれば良いだけのことで、後はかち当たるのは標題なり中の内容が分かれば、個別に相談して考えてくださいよと言えば良い話のやつを、皆さんに公表するような形になるので、それ自体が何となくこう錯綜した感があるし、必要ないのではないかということで、あそこに出されるのはあまり良くないということを言われたので、考えてみるとそういうことやなということです。

それでもう一つは、この書式というのが、東濃西部行かれて一般質問をやると、これがまず来るわけやね、この最初の質問事項のほう。それでここには、当初あれをやり始めたときには、べろ書きで良いよと、思ったことでこんなことで不満がって言ったら、あそこへ行くとこういうことを書くわけやね。これで一定、それを元に担当課と打合せをすると。

そうすると担当課は、もうある程度言いたいことがこういうことだということが分かると、それなりの資料を持ってくるわけです。それで打ち合わせする。今だと、会って何々を把握してますか、というような質問に対しては、これどういうことが聞きたいんですか、とそこのときに打合せをして、時間かけてこうやってやるわけだけれども、何が聞きたいかということだけはべろ書きで、これは表に出ないので、担当課だけにということの説明だと思う。

そういうことが大事じゃないかということの定義をしようということを、うちは会派のところの挨拶の中で言った覚えがあるわけですがけれども、それをもって議会に行くときにこういうこともあろうし、今だと事務局自体も見ておると、物すごく早く出されて万全の準備を整える方もあれば、通告の日の10時前に、2日前に出されると、予定シートでも。

それでやると全くこの意味がないというのが、対応に苦慮しておるというのが見えてあって、これでは逆に言うと真面目な人が損をするようなことでも良くないし、損するわけじゃないけれども、報われないというのもあるということで言うと、一回考えてくださいよと。そういうことの方式はちょこっと手を加える必要が要るんじゃないですかということを定義して、事務局のほうで考えていただいたのがこの手法だと思います。

それで、まずは打合せをスムーズにしてもらおうということと、それからあそこに公表するということ自体の意味合いは、何かと言ったら書き合うということだけならば、標題だけ、もしくは答弁者が誰かということだけが指定だったり、ここに出るので、事務局は把握するので、議員と答弁者のところで、担当課とのところで、協議してもらおうということが良いのではないかということだというふうに思うわけですがけれども。

それで予定シートを自分なりに解釈するのは、局長にお聞きするようなことで言えば、両方を出せということではなくて、どっちか書いて決まれば、これは確認のためにしてきたやつを、ということだと思うんだけど、逆にこの最初の思いの中で、もう既に書いてあれば、要旨のここに書くべきものを。

それでそれを、担当課と打合せでそのとおりで良いですよと言われたら、それでオーケーだと、改めてこれに書き写さなくても良いということでもあるし、逆にこれを出すのが今までの形式上やりにくい。こっちだけ出したいと言われれば、このところで逆のことを、細かいことを書いたとて良いわけけれども、形としてはこれがある程度、前寄り・当日というようなことではなくて、予定シートを出すのが一日前で、開会したらその日の昼に本番に、正規の通告書を出すというようなことをされても、非常に混乱を生じるということで、ということだというふうに思うわけけれども。

僕はこの2つを、どちらかを重点と言うよりも、どちらかをしっかり書いて、打合せをしっかりともらえれば、それで事務局に一応、この標題でやりますよと、それで要旨でありますよということが伝われば、書式は別としても改めて書き移さなくても、ここにしっかり書いてあれば良いというふうな理解で、今も聞いたところです。

その辺のところだけがあまり、ひと手間増えるやないかというイメージに聞こえるといかんと思って、そういうふうに理解しておるけれども、それで良いかということだけちょっと、経緯と質問のような形になるけれども、聞きたいところや。

○委員長（樋田翔太君）

では局長。

○事務局長（大山雅喜君）

そうですね、少しは執行部のほうをやった経験から行くと、この打合せシートというのは大変ありがたいので、これを基にスムーズにやっていけるんじゃないかというふうな気がしています。

要旨が決まっていれば、今、熊谷委員がおっしゃったように、打合せの中でもう既に要旨を書いていたでもいいと思います。

その予定シートはなぜかと言いますと、やはり打合せ後に要旨が決まって議員さんが配られたものと、執行部が見て、あれこんなふうだったかなという、ちょっとそのそごが発生するといけなないので、最終確認のためにお願いしたいなというふうに思っていました、これが手間だということであれば、既に要旨が決まっていれば、執行部の打合せの中で要旨がこれに決まりましたということで、打合せシートのほうに書いていただいても、それは確認済みということで処理をしていけばというふうに思っていますので、予定シートはマストじゃなくても良いということによろしいですか。

○委員（熊谷隆男君）

もともとの経緯で言うと、昔は要旨のところをなるべく詳しく書けって言われよったんやね、僕ら。何が言いたいか分かんので、例えば観光事業についてどのように把握していくかというだけでは、観光事業の何が言いたいんだというのが分かんので、要旨をいっぱい書けということになってたわけ。

ところが今、それを書くといろんな質問に及ばないので、大きく捉えた要旨になると。そうすると、それを予定シートで出されると、執行部のほうは、今度逆に調べよったら、これは教育委員会

の担当だよと、こうなるわけですよ。観光でも文化財、昔で言えば、教育委員会で観光扱ってないですよとこうなる。それでまた教育委員会呼ばないとなる。

それでなるべく詳しいことで、教育機関の施設の資材を観光に使ってはどうかという提案じみた質問をしっかりと書いておけば、教育委員会も経済のほうも来てくれるということになる。もうべろ書きにしようというのが最初の基本で、今の予定シートをやるというのは。

一番多いのが、どここの市を見ると、こういう良いことやっておるのに、瑞浪市も取り入れたというのが起点でと言ったら、もうその打合せのときには、そのこのページを見てくるわけやね、担当課が。そうすると話が早いわけ。

一番僕が悔しい思いをするのは、打合せをするときに、どここの市では、こういうことをやっておると言う、そのときは黙っておるわけ、担当課は。ところが帰って見るわけやね。そうするとそのときはうなずいとしたので、分かっておって理解してくれたなと思って話をすると、本番のときに否定的なことを言われるということってあるわけやね。

これ、東濃西部の広域で一般質問をやるときに、まずこれが下りてくるわけ。それでこれに思ったことをば一つと書くわけ。こんな通告があるんかと思って出すと、そうじゃないわけ。これを持って事務局長が来て、これ、言われたいことはここに書かれてあるようなことでどうですかと言って、ここで協議をして、これについてはと言ってお答えもいただくわけ、レクを受けるわけね。レクチャーを受けて、これはもうやっとなことだと、ああそうですか、そうしたらこれ見ますわと言って、次に、予定シートはないんだけど、あそこは。これに、そうしたらこの文書を、これを書きますわと言って正規のやつを出すということにすると。

そうすると、その場で否定されることはないわけ。出しておいて行ったら、それやってません、ということの答弁はないわけやね。それはもうやっておるという、ある程度の、国会でもやっておる事前レクと言われる部分の、予算委員会で質問する前に、行政が質問者にレクチャーを行うというようなものを何時間もかけてやるわけだけでも、その部分を充実しようとすると、これが大事ということだけでも、これやりたくないという人は、別にこれ出してもらって打合せすれば良いことですので、今までどおりやれば僕は良いというふうに思っておるわけだけでも、今聞いた流れで言うと、打合せを充実してしっかりしんと、何となくこう話がちくばぐで、一般質問聞いておっても。正しく答えてくれとらんやないかと思うときがあるわけ。だからそういうことを少しでも減らしたいということが、起因でもあります。

○委員長（樋田翔太君）

5番、柴田増三君。

○委員（柴田増三君）

大体今、分かったけれども確認だけ。僕の場合だったら予定シートの中にあるけど、最初から書いたりとかしておるので、そんな中で打ち合わせしていくので、どちらでも良いかなという今、捉え方をしたわけだけでも、それで良いかという確認だけ。

○事務局長（大山雅喜君）

できれば打合せシートを使っただいて、そこに要旨が決まっていれば要旨を書いていただいて、この紙を使っただきたい。それで予定シートは手間だということであれば、通告書に下書きしていただいて、確認のときにこの下書きだよということで、通告書の下書きを出していただきたい、という方向のほうが良いですね。予定シートを省く。

○委員長（樋田翔太君）

下書きをすることで、事務局が事前にその文言のてにをはとかそういうところの確認、直すというメリットあるんですが、特に書式を作らなくても、通告書を仮にというか使って作れば、問題なければそちらで行きましょうか。

○委員（熊谷隆男君）

ここにおる人はしっかり出しておるけれども、全然できていない人間がおるということです。何回もやる。向こうにうまく伝わってないので、またレクチャー受けんなんということを繰り返しておる人もおるわけですよ。

これ自分のことを聞いておるわけやから、自分は一生懸命やっておるのに、何もここにおる人文句言うことはないけれども、一般質問をやっておっても恥ずかしいような質問になってしまうので、やりたいのは分かるけれども、何回も呼び寄せてやらんなんというようなことは、どっちも、仕事にもあれだし、そういうのを見受けられるところで言うと、やはり思いをちゃんとしっかり言いなさいということで、使う・使わんは個人だけでも、この分使わんやつはしっかり一般質問をやってくれるということだというふうに理解するので、そのときにはそのときで物を言わせてもらいたいと思うんだけど。

○委員長（樋田翔太君）

それこそ私、1期目のときは通告書を出して、それでそのままやると、真っ赤になったやつは、コミュニティなどを回るところもあって、もう少しちゃんとしたのを出すべきだということころは理解できるところでありますけれども。

ただ、予定シートで出してしまうと、本当にもうかちつとしたものを作っていかなきゃいけないという意味があるので、質問のべろ書きではないですけども、事前に調整をしておくことは、必要なことにつきまして書けると良いなと。

それで書式のほうなんですけれども、これ表裏で2 標題までなのかな、うまく片面に収まれば、張り出したときに見やすいかなと思いますので。

○委員（熊谷隆男君）

これは張り出さないものです。

○委員長（樋田翔太君）

ああ、そうですか。

○委員（熊谷隆男君）

張り出すと、修正でここバツが消されたものだよな、となるわけ。こんな恥ずかしいことは表に出す必要はないと。

もうあそこに出すのは、ほかの人とかち合わないためのチェックであるのなら、あそこにはもう
標題だけでも良いし、答弁者誰ということだけ書かれれば良いので、この中の説明は、こういうこ
とが気になると書いたほうが良いということ。

俺、あそこに張り出されるというのがみんな緊張するので、要旨をもう1か月前からきっちり、
文書で出すわけ。気軽に箇条書でも良いので、これが聞きたいとか、ここがうちの日吉ではこんな
ことがあるので、元はこういうことですよということを聞きたいとかということを書けば、
あそこに張り出されて消されることはないという。消して自分の字じゃない字で書かれたやつまで
出されて、緊張するというか、気軽にしたいので、あそこに張り出さないというのが前提。

出すのは、標題と、かち合うか確認するのは事務局でチェックしていただくという、あそこに張
り出すのは、ほかの議員と当たるか当たらんかを調べるということが一番主たるものである。一般
質問も少なくなってきたので、簡単にというか、通告ぐらいい気持よくやってもらうように。

それから、市長が標題が一つになっておるのはいかがなものかと何回も言われて、市長に言われ
てやるのもしゃくに障るところだけれども、やはりいろんなことを考えるには、いろんなことを書
いたら良いというのは、それで消されても良い。もうやってますよと言われれば、ああそうかと、
それはこの打合せの段階の話であるので、正式なことでないと、そういうことを思い付いたことを、
やりたいということをいっぱい書いたら良いというのが一番。こうしないとなかなか一般質問自体
が充実しないということが良くないなと思うところであります。

○委員長（樋田翔太君）

そうすると、手順が変わってくるわけですね。

5番、柴田増三君。

○委員（柴田増三君）

そもそもこの予定シートを、修正したやつをいろいろとコミュニティとかいろんなところに流す
けれども、正式な通告書で出てきたものは流されて良いんやけれども、打合せのうちに修正したや
つを。

○委員（熊谷隆男君）

最終形の通告書を、議長へ提出して、流してもいいけれども、訂正1とか訂正2とか、3回ぐら
い変わるやつがあるよね。あれは必要ないんじゃないかと。

それで正規の通告書を最終形だとすると、やはりその前に予定シートがあるわけで、その打合
せの部分というものは、ほかに見えないほうが良いと、べろ書きで明示しても何にしようが、担当
課と質問者の間で行えるべきことで、ほかの人が知る必要はないんじゃないかと。

○委員長（樋田翔太君）

局長。

○事務局長（大山雅喜君）

今この2段目に書いてあるように、打合せシートが出されましたが、答弁の担当の部長だけに今
回は送るようにします。

それが今のおっしゃったことですよね。それで、もしその中で話が多いようでしたら、またそこで追加していくという形を取りたいと思っています。

○委員長（樋田翔太君）

5 番、柴田増三君。

○委員（柴田増三君）

要は、予定シートであろうと打合せシートであろうと、しっかりやりやあ良いけれども、最終的に結局、議会で開会した後にみんな通告書出すやない。だからその通告書が出たときに改めて流すべきで、その前に流すというのはやはりやめたほうがいい。

○委員長（樋田翔太君）

それこそ、予定シートでも一回事務局に出して、打合せをして、正式なものが決まってから通告書に持っていくというのが本来の流れかなとは思うんですけども。だから一般質問をやりたいたいときは、その1か月前から話はできるし。それでこういうふうにいざ持ってきました、でもそれは仮の状態にしておいて、受付はその打合せが終わった後に、正式に受付で良いわけですよね。ということは、その状態でということだから、きれいな文書になって出てくるということですね。

4 番、熊谷隆男君。

○委員（熊谷隆男君）

かつて瑞浪市議会も通告書だけやったんやね。何も出さずに通告書だけだったと。それでこれは昔から、全然皆さん出すのが遅い。

それから打合せやって、出した後に執行部と打合せやったと。そうすると修正がどれくらい多いわけ。それまで打合せしとらんもんで、通告してから修正をかけるもので、2回3回になるわけよ。

それは良くないということで、判こを事務局がついて、議長が判こついたようなやつを、また修正っておかしいやろうということになる。

それで、本番の通告書が最後通告だから、これを出すまでの準備として、早くもう出して作ってもらいたいと思うかもしれないけれども、まずしっかりした打合せをすると1回で済むわけ。

ところが分からんもんで、そのとき初めて説明を執行部が受けると、そのとき黙って聞いとるわけ、メモ一生懸命取るわけ。それで帰っていくわけ。そうするともう一回良いですかと、こうなるわけ。

それを開会の2日前にやられたら、間に合うわけがない。けれども、悪いわけでもない。1日前に出したって、それはそれって、本当に正しい答えが導かれる、今度開会してからでもまた打ち合わせするというのは前と同じようになるわけ。これを相性と思えば、何で早くできないか、何で早く打合せができないかと言うと、言いたいことが何かが分からんからや。

最初、その通告の文書、この堅苦しい文書の前に何やということと言っておけば、打合せのときにここに書いてあることを言ってもう資料もある程度、予備知識を持ってレクチャーが受けられるとなる、打合せができるわけ。

最初からもう、自分の言いたいことはこういうことだと言えば、それこそ30分で済むような話

なんや。俺みたいに余分な話をすると長くなるけれども、普通の話をしておれば問題なく済む話なんや。これを何回もやらなあかん、見ておると。

皆さんはそんなことないということは分かるけれども、そういう方もあるので、そこにハードルがあるので、なかなか一般質問やるのに躊躇するとか、こんな質問して良いやろうかとか思うのも恥ずかしく書いていただければ、それに対応してくれるやろうと、答弁のほう、担当課は。俺は、もっと自由なことを書いてくれたら良いということの話。それで、やり方を考えてねと言ったら、事務局がこういう表を、ということの提案。

○委員長（樋田翔太君）

3番、柴田幸一郎君。

○委員（柴田幸一郎君）

ちょっと私、付いていけないのでちょっと教えてもらいたいんですが、打合せシートは公表しない、でも予定シートは公表する。

○委員（熊谷隆男君）

いや、しない。

○委員（柴田幸一郎君）

しないということですか。どっちもしないんだった場合、これ前、議員同士で同じような内容がかち合ったことがありましたね。それがコロナのときです。コロナのときは、似たような質問ばかりが出てきて、議員間同士でここまでは私がしゃべって、ここまではあなたがしゃべるという、議員間同士で話し合いができたわけなので、予定シートがあったおかげで。

今回もそんなふうに、議員間同士で誰がしゃべるか分からないようなものだったら、ホワイトボードで、打合せシートも出さない、予定シートも出さないということだったら、議員間同士で誰がどんな話をするかというのを把握する方法はどんなれば良いのかなと。

○委員（熊谷隆男君）

出すけれども、要旨や何やらは、何々についてってやればかち当たるということと、僕が聞いた話で言うと、これに書くやな。

そうすると、例えば柴田君が教育についてやりたいと。そうしたら、同じように教育についてやりたいという人が、内容は担当課、執行部は分かるわけね、先もって出されると。そうすると、柴田さん、これ誰々さんと当たってますよということが分かるわけ。

それで、柴田君が、俺が消防のことをやることを知る必要がないわけやな、俺の一般質問やから。人が何をやろうが、かち当たらないんやから、事前にほかの議員に、僕これやるって告知する必要がないもので、一番は何かと言ったらかち当たるという。

○委員（柴田幸一郎君）

そういうふうだったら、もしも早い者勝ちみたいな感じで、似たようなことを質問する場合だってあるわけですね。

○委員（熊谷隆男君）

だからそれを調整しなあかな。

○委員（柴田幸一郎君）

そうやけれども、その場合は、例えば執行部は知っておるけれども、私たちは知らない場合が。

○委員（熊谷隆男君）

いや、それで本人が知れば良いもので、自分と棚町君だったら2人で相談やろう、今でも。

○委員（柴田幸一郎君）

そうですね。

○委員（熊谷隆男君）

そうしたら、俺らかち当たっておるというのを、これを出すと、質問内容をまた書いてくれば、これ棚町さんとちょっとかぶってますよということは、事務局も担当課も把握するもので、これ2人で相談してくださいよと言われたら2人で。

○委員（柴田幸一郎君）

僕と棚町君だけでやって、増三さんは知らなくても良いと。

○委員（熊谷隆男君）

そうや。

○委員（柴田幸一郎君）

ホワイトボードにも出さない。

○委員（熊谷隆男君）

標題は出すよということ。先に標題と答弁者を書くもので、例えば学校の教育で言ったら教育委員会事務局長か次長か、出すわな。これだけ分かるとすると、棚町君も当たれば変えていくということだけれども、内容については分からんもので、そのところはこれを細かく書いてくれば、何が聞きたいか、同じ質問の要旨でこれであつたけれども、質問の内容は違うよと、こっちは学校の教育の子どもたちの立場のこと、こっちは先生のことを心配していると、かち当たっておる2人で相談してとなるわけ。

それで前は、早い者順で出した者が優先ということだったけれども、現実そんなことないわけ。質問変えるどうのこうのと、こうなるわけ。前の人、これも年の関係もあるやろうし、あれでやるなりなんなりで、人間関係で2人で考えればそうなるわけ。

それは変わらないもので、2人で相談するのは。でももし仮に、俺は早い者順ということになれば、なるべく人の分とかち当たらんようにと言って、早く出すと、ますます早くなっていってしまう。

前、成瀬さんと同じところでかち当たったことがあるわけ。それで成瀬さんが質問することと、僕の要旨の内容では違っておって、成瀬さんやらせてくださいよということでやるような、そのところ触れないようにやろうと。それというのはお互いのことで、そんなことはほかの人は誰も知らないわけ、こんなことを相談したなんていうことは。

だから、それは2人の、自分個人の、1人の人の権利だから、それでかち当たつとるので相談し

ましたと言って、2人の相談を柴田増三さんに話す必要はないわけ。

だからそれは、事前に担当課から出すので、これを出せば、どんな内容を質問したいかということとは分かるわけだから。それをそのときに、柴田幸一郎さん、棚町さんと当たっておるので、相談してください、棚町さんにも言っておきますからということで言ってくれば、もう2人で相談してくれば良いわけ。

○委員（柴田幸一郎君）

じゃあホワイトボードに出すものというのは、この打合せシートに出した場合、標題に相当する質問事項①、質問事項②ぐらいしか。

○委員（熊谷隆男君）

出ない。

○委員（柴田幸一郎君）

出ない。大体この①だって、べろ書きなもので、思ったことを書くわけやんね。それが出てくる可能性もある。

○委員（熊谷隆男君）

いろいろあるけれども、一回やってみて、皆さんに私はこういうことをやりたいよと知らせたい人は出しても良い。自分の顕示欲で出してくれりゃ良いけれども、これが逆に何の意味があるんだということを思うところや。

○委員長（樋田翔太君）

2番、棚町君。

○委員（棚町 潤君）

これ要望というか、このシートとはちょっと関係ないかもしれないですけども、一般質問をやる上で、スムーズな一般質問を行うために今回打合せシートを出すということは、自分の思いから全てこの一般質問で伝えたいことから書いて出すということになりますよね。

ということは、我々、竹やりを持ってこう勝負を挑むような格好になるんですけども、僕らの情報は事前に執行部には出ていると。でも、逆を言えば、執行部サイドの情報というのは、僕らは一般質問のときにならないと分からないことも多いと。特に数字なんかは、絶対当日しか出てこないことですので、その辺ちょっと何か、配慮いただけないかなと思うところなんですけれども。

○委員長（樋田翔太君）

5番、柴田増三君。

○委員（柴田増三君）

それは打合せのときにどういう答弁するとか、そこをある程度打ち合わせて。

○委員長（樋田翔太君）

2番、棚町君。

○委員（棚町 潤君）

それが、これ出すじゃないですか、一般質問の。それで当初の打合せをするじゃないですか。そ

れで庁議がその後にあるんですよ。それで庁議があつて変わるんですよ、話が。

大体、数日前に話が変わって、えっということになることが多くて、実際、打合せをしたときと回答が変わってくるというのはあるわけですね。そうなってくると、逆に僕たちがあわあわするんですよ、こう答えられたら。

○委員長（樋田翔太君）

その点につきましては、執行部打合せが終わった後に、担当部からお話をいただくしか方法はないかなと思いますけれども。その前の打合せで執行部内での答弁の確認をして、その後に、僕の場合話をして、どう変わったかというところまで詰めて、その後にやっているんですけども。

そうしないと、質問している最中に、打合せと違うことを言われたらまた話が、同じ段階を進めなくなってしまうので、それは個々の打合せでやっていくしかないと思います。数字的なことを事前に聞きたかったら、それは調査できますので、議長を通して質問で。

○委員長（樋田翔太君）

2番、棚町君。

○委員（棚町 潤君）

ある程度それが事前に分かれば、今、スクリーンを使って映像を出しているので、前回、熊谷委員がやられていましたけれども、そういうことに落とし込んだりできるわけですよ。そうなくなると、市民も分かりやすい一般質問になるし、ここで傍聴している皆さんだったり、議員としても分かりやすいし、工夫しても分かりやすい一般質問になるので、そういったところはやはり取り組んでいくべきかなと私は思いますけれども。

○委員長（樋田翔太君）

熊谷君。

○委員（熊谷隆男君）

今ので、僕はこの間の質問のときに、2枚作ったんやね。予定シートだけれども、もう全くべろ書きのように、何々についてどう思うか、このような1行で済む。

ところがもう1枚作ったのは、その下のところに、これは日吉の投票所がなくなることが起因しておって、それでこれが頭でということを書いたやつをもう1部作ったわけ。それでこれを、今、局長のほうで見せないんやね。それは表に出さないように見せたわけ。ホワイトボードには、投票所の投票率についてどう思うと、これしか書いてないわけ。それでこれを何で聞かかというやつを、そこにまたば一つと書いて、また全てに要旨のところの説明ができるやつは書いて渡したわけ。

そうすると、言ってる意味が、日吉のことがどうだと、投票所がなくなることが心配するなんていうことももう、打合せのときには資料で投票率はそう下がったらんぐらいの数字は出てくるわけよ。そうすると、ああこれ聞いていたら本当、上をなめるだけの話になってしまうところが、そのときにその先を考えることができるわけ。

そうしたら、ここに棚町君が心配したようなことを思ったわけ。ここに全部書いてあったら、再質問で時間いっちゃうのでと、そこはせめぎ合いで、これは聞きたい、ここまでは教えても良いと

というようなことはある程度書けるけれども、やはり肝のところは、やはり取っとかなというのは、これはやり取りの中で必ずあるわけ。

僕は、市長選の話なんかするつもりはなかったわけ。言わなかったわけ。全然してない。前回、去年のあれのときに投票率、市長選は少なかったということなんかは打合せでは一言も言っておらんけれども、何でもかと言うとその起因のところと、全体の期日前の投票率が下がっておるということだけは聞きたいという意味で、日吉からの絡みで、期日前の土曜日を増やしてほしいというのが言いたくてという筋書は伝えた。

俺、この肝のところはやはり伝えられない。全てを裸にするということはできんもんで、それはせめぎ合いで、向こうに言ってもらいたいところだけはやはりきれいに、どうしてこれを聞くのかという説明をすると、親切丁寧に教えてもらえるわけ、この資料をこれはこういうことで、過去こういうふうという下に数字が出てきたりするわけよ。それはやはり頭の中では、あ、これは下手すればばかなことだったと後で思うわけだけれども、そういうことがあるというのが、体験上で言うところということ。

○委員長（樋田翔太君）

通告後、そのさらに打合せをする云々のところは、個々のことかなというふうに思いますので、そこまでは。

手順についてちょっと整理させていただくと、掲示をするかどうかは、本人が決めることであって、してもしなくても良いということの良いですか。

①の項目と、それからこの答弁者のやつだけは出すよと。それは打合せで変わってきたら変わってきたなりにまた出していく、変更していく。

○委員（熊谷隆男君）

要旨をここで、俺のほうでこれを出すとしても、要旨を伝えたいとすれば、例えば先ほどの投票で言えば、投票率とかぐらいのべろ書きを掲示すれば良いけれども、あまり細かくやると、文言の言い方でチェックを受けるのは心外だと思うわけやな、これ。

そうかと言って、それじゃあみんな簡単にしていってしまうのは良くないわけ、訳分からへんのやから、チェックされるのが嫌で短くするほうに働かんようにしようと思うけれども、けれども言いたいことはやはり、投票所はどうなっとるんだろうとか、投票する人たちの不安はなからうとか、いうことを書いておいてくれば、大体分かるわね。別にそれ、伝えても伝えなくてもそれは別に良いと思うけれども、標題が分かれば、そのことでかち当たる人は分かる、大体が。

そのようなことということで、僕が2回、昨日、事務局に言ったのは、一つの質問に対して、教育委員会と福祉が重なる、福祉で答える部分では、福祉で聞こうとする人のことになるかも分かんので、そこのところは事務局が手間でも、どういう質問をされるのかのある程度の概要が分かると、これはかち当たっていますよと、一遍ちょっと相談してみてくださいと言ったら、お互いしてもらえれば良いということと言うと、事務局の仕事を増やすようなふうだけれども、それが一番の確かなと。

担当課へ行ってからでも間に合う話であってあれだけれども、事前に提出されたときに、ある程度、文言は同じようなニュアンスだと。そうだから、なるべくこれにしっかり書いておいてくれば、かち当たっておってもやれる場合もあるし、相談しなくても大丈夫という場合もあるもので、それをべろ書きをしてもらうほうが良いのではないのかなと。

○委員長（樋田翔太君）

ちょっと元に戻りますけれども、そうすると質問事項と答弁者については、見えるようにしておかないと、当たっているかどうか分からないので、そこは出しておく必要があるということで良いですね。

そうすると、本当はこの両面見ないといけない、しかもその質問事項2枚なので、三つ以上質問される場合もあるかなと思うけれども。

一般質問予定シートのほうにつきましては、通告書を仮提出みたいな形にすれば、この打合せシート、じゃあ要らないんじゃないかというような話もありましたね。

○委員（熊谷隆男君）

これがもう、慣れてないのでべろ書きしたくないという人は、先ほど言ったみたいに簡単な文言でも良いので、書いて出して、集めて掲示するときには、これ掲示すれば良いので、ホワイトボードに。

○委員長（樋田翔太君）

そうしますと、打合せシート、予定シートそれぞれ残した状態で、出し方については今の発言があったようにするというので。それで掲示する標題につきましても、決定できるということで。よろしいですか。

それで試行的にこれを6月議会でやってみるということで良いですね。

○委員（熊谷隆男君）

そうやね、まずこれ慣れないといけないけれども、まあ一回、試行的にやってみたらどうだと、我々でね。

○委員長（樋田翔太君）

2番、棚町君。

○委員（棚町 潤君）

7番の通告書提出から議案質疑までで、この間に要旨の変更を可能とするということですが、どの程度まで、誤字ぐらいですか。

○委員長（樋田翔太君）

誤字とか、その計画名が違ってたとか。

○委員（棚町 潤君）

その程度ですね。

○委員長（樋田翔太君）

その程度です。

○委員（棚町 潤君）

内容がここで変わるとか、アとイを変えるとか、そういうのは無理ということですね。

それと、できればですけども、このモニターの締切というか、何日にモニターのチェックをするとかも記載いただいたほうが良いかなと思うんですけども。例えばモニター使用が一般質問で1週間前とか。

○委員長（樋田翔太君）

その辺はちょっと相談します。

2番、棚町君。

○委員（棚町 潤君）

あともう1点。これ日程についてですけども、これ次の6月議会は6月3日の1か月前に打合せシートを出せよということなので、5月3日ですけども、ゴールデンウィーク明けからになりますか。

○事務局総務課長（加藤真由子君）

前に来ます。

○委員（棚町 潤君）

前に来ます、じゃあ5月2日から。

○事務局長（大山雅喜君）

2日ですね。

○委員（熊谷隆男君）

ふだんは開会前の1か月やけど、一般質問が開会してから一番最後なので、全く2か月前に出すというタイムラグで言うと、早くやるとその間に、打合せしとるやつを忘れちゃうことがあるわけよ。

それでやはり四苦八苦せんようにしようと思うと、俺、これもちょっと考えてもらったほうが良いと思う。

○委員長（樋田翔太君）

前もそういう議論があって、一般質問と委員会質疑、前後どうするかというやつをやっていましたよね。それで戻したり変えたりしておるんですけども、議案質疑で自分の聞きたい質問の内容を聞かれてしまうということが結構あったので、一般質問を前にしたらどうだという議論も前、ありましたよね。

○委員（熊谷隆男君）

ただ、どこも今、後にしてきよる、土岐ぐらいかな、前でやりよるのが。予算決算のところの質疑が大切なんやけれども、一般質問だと、新しく出た議案に対して一般質問でなんてことないので、委員会のやつで重なることってない、予算決算のやつで重なるということは多いわけ、質問のあれで行くと。

一般質問で先にやったら、もう皆さん、何で後ろのほうへ持っていくかということ、予算決算をし

っかりやらない。一般質問したらもう、仕事が終わったような気になって、予算決算の充実というものが進まない。予算決算を一生懸命やって、一般質問は自分の意見だから変えられるわけ、ああそういうことかって言って、出そうと思っと思ったことが予算決算で先に出ちゃったと。

そうしたら、自分のほうはそれを省いて質問することはできるかもしれないけれども、一般質問で先に来てしまっておったら、予算決算で質問しにくくなってしまうところが。それよりは予算決算をしっかり質疑して、予算決算のほうを重視しないと、一般質問は幾ら質問したって、議決案件でもないのに変更なんかあらへんのやから、言いたい放題だけのことだもので。

だからやはり予算決算を大事に先にやって、議決するかしないかとやらないと、一般質問をやって、答え出たので予算決算で質問じゃあいいわってしなかったら、何にも残らないことになってしまうと。だから予算決算は皆でやった後で、一般質問は質問者がやると。

それでもう一つは、今、議会を圧縮してなるべく充実したものにしようとする、今までだと予算決算委員会を後にする、委員会を後にすると、その後に委員長報告、それから何やかんやということになってくると、委員会後が長くなるわけやな。というか、今、一般質問終わったら3日後ぐらい閉会になっておる、3日、4日。あれ予算決算そこに入れたとしたら、作って委員長が打ち合わせしてどうやって言って、委員長報告作ってと言うと、1週間ぐらいやはりまたかかるわけ、委員会が終わってから。

そういう意味で言えば、今の圧縮したほうが、議会事務局のほうに関わることだけれども、一般質問、先に持ってくれば手間が省けるようだけれども、一般質問を最後のほうに持ってくれば、その原稿自体はチャンネルに出すだけの話だから、閉会した後でも良いわけ。

ところが、予算決算持ってきたときには、閉会時に委員長報告をせないかんわけやから、その間に、委員会が終わった後に、委員長が本来は自分で作って、予算決算の報告を作るというのに日にちがある程度要ると。そうすると何日かあってそこが3日4日余分に要るといえることと言えば、議会の圧縮ということにつながるということで、どこもやっておるといふふうに思うんだけど。

○委員長（樋田翔太君）

いずれにしても、議会が決めれば良い話ですので、今、こういう形を取っているということですね。

その通告をしてから質問までは長いので、その間に考えがいろいろ変わるということはあるかもしれないですね。

○委員（熊谷隆男君）

それで今度、議会改革特別委員会で、今日、シートというか皆さんに御意見伺うところで言えば、通告を議会初日にするというのが良いのかと。これ前から言うと、執行部はそれがどえらい困るわけ。逆のことを言うと、一般質問と通告とこの間があると、ここで文書を作ったり、先ほど棚町君が言った庁議のような検討のやつを3日前か4日前に行われるわけだけれども、あれを入れようとする、最低でも1週間、2週間ぐらいはないと、担当課も作る日にちも入れるとこれぐらいないと、やりにくいわけ。だから、どうしても放っておいても、通告と一般質問との間は、極端に縮

められないという現実はあるんやな、回答を得るのに。

だから、それを縮める唯一は、議会全体の開会を少なくしようと思ったら、今言った打合せシートやあれが充実すると、執行部のほうもその間に何日間でもう答弁書作れるということであれば、縮まる方向に行くんじゃないかなと。

○委員長（樋田翔太君）

そうですね。今、修正・検討ありましたけれども、それ大丈夫ですか。

○事務局長（大山雅喜君）

また反映させて。

○委員長（樋田翔太君）

また反映させたものを出してくれるということであります。

ほかにありませんでしょうか。

議長。

○議長（成瀬徳夫君）

局長は知っているんですけれども、湖南省が議会運営委員会に視察に行きたいという申込みが来ております。内容とかそういうものは分かりませんが、議会運営委員会が来るということは議会運営委員会のことに関して来るとしますので、その点で日にちと内容はまだ先になりますけれども、行きたいのというような申込みがありましたので、それだけ御承知おきください。

以上です。

○委員長（樋田翔太君）

ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

では発言もないようですので、以上をもちまして、令和6年第8回議会運営委員会を閉会いたします。

ご苦勞様でした。

午前9時27分 閉会